

本日は、私達七十五期生の卒業式にお越しいただき誠にありがとうございます。多くの方の支えのおかげで無事に今日を迎えることができました。

私にとって小山台高校で過ごした三年間は、短かったけれど、とても濃い時間でした。

小山台高校に入学が決まった日から、私達は期待と不安を胸に四月から始まる高校生活を楽しみにしていました。

しかしそんな思いとは裏腹に、四月五月と家庭での自粛を強いられました。新しいクラスメイトや担任の先生と一度も顔を合わせることができません。いま、「高校の制服を着て学校に行きたい」と思いながら宙ぶらりんの二ヶ月でした。

五月末にやっと高校生活が始まったのも、クラス四十人のうち半分の人としか会う事がかなわず、やっと全員と顔を合わせたのはもうすぐ七月になるうとする頃でした。マスク越しで顔を全部知らないままの出会いには、何だか不思議な感じでした。

そうやって始まった高校生活も、合唱コンクール、運動会、文化祭と次々に行事が中止となったり、例年とは違う形で行われたりしました。何より残念だったのは修学旅行に行けなかったことです。悔しさや歯がゆさをかみしめながら、「今できること」を精一杯こなした三年間でした。

高校生活を振り返ると、とにかく多忙な毎日でした。必死で単語帳を開いていた行き帰りの電車。昼練のために早弁をした一〇分休み。ホームルーム後はダッシュで班活に向かい、帰宅後は睡魔と戦いながら授業の予習や復習、小テストの勉強。とにかく息をつく暇もない毎日。それでも、たとえ行事などができなくても、高校生活が送れただけでも恵まれていたのだと今は思います。

高校生活で一番大変だったことは何でしょうか。人それぞれだと思いますが、私にとっては受験でした。自分のやりたいことは何なのか、本当にその大学に行きたいのか、など何度も何度も今までにないくらい悩みました。先輩の姿を参考にするチャンスも少なく、分散登校から始まった慌ただしい高校生活の中、自分と向き合う余裕もありません。進路選択の時期を迎え戸惑うしかない時、改めて周囲の人の大切さや存在の大きさを実感しました。

まずは小山台高校の大切な仲間たちです。精神的に辛い時、不安で押しつぶされそうな時に、一番に声をかけてくれたのはいつも周りにいた友達でした。友達からの「大丈夫だよ」という言葉に救われたことは数え切れません。うれしい時は一緒に喜んでくれて、悲しい時には一緒に泣いてくれました。辛さや喜びを分け合ってくれる友達に本当に感謝しています。ありがとうございます。

出会った時期は通常より二、三ヶ月遅かったけれど、友情を培うのは時間の長さではなく、共に過ごした時間の濃さなのだと思ってきました。友達が頑張っている姿は私に、元気や勇気を与えてくれました。素敵な仲間のおかげで、今の自分があると思います。小山台生には、互いを高め合うことができ、仲間を大切にできる人達がたくさんいます。そんな友人達との出会いは、この先もずっと私にとって一生の財産です。本当にありがとうございます。

そして、小山台生想いの先生方には感謝しかありません。入学が遅くなるという異例な状況下で、先生方にも初めての事ばかりの中、模索しながら

も、オンラインでの授業や面談など、私たちを少しでも安心させようと努めてくださいました。

成績が伸び悩んだ時、泣きながら相談した時、私たちが行き詰まる度、親身に話を聴き、励ましてくださいました。時には、心を鬼にして、厳しいことも言うてくださいました。そんな先生方には本当に感謝してもしきれません。本当にありがとうございます。

そして、三年間、毎朝早起きをして栄養満点のおいしいお弁当を作り、自分が決めた進路を全力で応援してくれた家族にも、この場をお借りして感謝の気持ちを伝えたいと思います。時には我が子を思うがゆえに、ぶつかったこともあったと思います。私たち以上に不安に思うことも多かったかもしれません。そんな中でも、私たちを信じてくれて、いつも一番の味方でいてくれて本当にありがとうございます。

そして、在校生の皆さん。私達七十五期生は、皆さんから見てもどんな先輩だったでしょうか。私たち自身がこの学校の行事や伝統を深く知らないまま皆さんと関わることになり、先輩として皆さんに何かを残すことができたという自信はありません。皆さんと関わる中で、時には厳しいことを言ってしまったこともありましたが、今まで私達たちについてきてくれたことに感謝しています。ありがとうございます。この先も、小山台高校の伝統を皆さんなりの形で引き継いでいってくださいね。

今日卒業を迎える十八歳の私たちはもう成人です。自分のことは自分で決められるようになり、それと同時にさまざまな責任を引き受けなければなりません。私達が飛び出していく社会は、果てしなく広い未知の世界です。長い人生、壁にぶつかったり、あきらめたくなったりすることもありますが、そんな時こそ、小山台高校の仲間がくれた「大丈夫だよ」という言葉、友達の頑張っている姿、先生や家族はじめ多くの方からの励まし、そして何より小山台高校で努力してきた自分自身のことを思い出し、目標に向かって、くじけず、進み続けたいと思います。小山台高校で過ごした日々は、私達にとって、一生の、そしてかけがえない宝物です。

最後に、これまで私たちを支えて下さった多くの皆様に心より感謝を申し上げますとともに、七十五期生が小山台高校の卒業生としての誇りをもって歩み続けることを誓い、答辞とさせていただきます。

令和五年三月十五日

卒業生代表 松本 柊